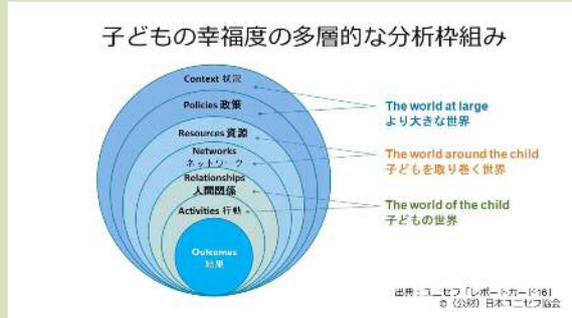


ユニセフが、世界38か国の子どもの幸福度を多層的・多面的な新しいモデルを使って分析した「レポートカード16」というものが、昨年(2020年)9月に発表されています。

(一番外側に「全般的な国の状況」→「子どものための政策」→「家庭や地域の資源」→「保護者の職場・学校・地域とのネットワーク」→「子ども自身の人間関係」→「子ども自身の行動」→中央が「子どもの幸福度の結果」という多層的な分析の枠組み)



そして、幸福度の結果は、精神的幸福度、身体的幸福度、スキルの3つの側面から考えられ、それぞれ2つずつの指標で分析されています。

分野	指標
精神的幸福度	生活満足度が高い15歳の割合(※1)
	15~19歳の自殺率
身体的健康	5~14歳の死亡率
	5~19歳の過体重/肥満の割合
スキル	数学・読解力で基礎的習熟度に達している15歳の割合
	社会的スキルを身につけている15歳の割合(※2)

※1 最近の生活全般にどれくらい満足しているかという設問で、0~10のうち「6」以上を選んだ生徒の割合  
 ※2 「すぐに友達ができる」という設問に「まったくその通りだ」または「その通りだ」を選んだ生徒の割合

さて、この「レポート16」において、日本の子どもの幸福度は、38か国中、何位だったと思いますか？

… 総合順位では20位でした。「意外に低いんだなあ」と思われた方も多いと思います。さらに驚くべきことに、身体的健康は1位なのに、精神的幸福度は、なんと37位なのです。(スキルは27位) 日本は、「生活に満足している」と答えた子どもの割合が最も低い国の一つだったのです。

身体的健康は世界で1位という結果が示すように、日本は医療・保健制度が充実していて、安全面でも優れているため、日本の子どもの死亡率はとて低いのです。しかし、自殺率が高い。「生活満足度の低さ」と「自殺率の高さ」から、精神的幸福度がほとんど世界で最下位の37位という結果になってしまっているのです。

以前にもお話したように、今の日本の社会は、大人たちだけでなく、子どもたちにとっても生きづらい世の中なんだと思います。これは何とかしなければ・・・という気になります。

日本のデータはないものの、この「レポートカード16」では、「より多く外で遊ぶ子どもの方がより幸せである」という結果が示されているそうです。外遊びの機会は子どもの幸福度に関係するということが明らかになっています。うちの園はもともと外遊びの時間を多く取るようにしていますが、今後もますます、毎日の園生活が楽しくさせるように配慮していきたいと思います。

そして、どんなに小さな子どもであっても、子ども一人ひとりを一人の人格をもった人として接すること、さらに、そうした生活の中で、子どもたちが自分らしさを発見し、自分に自信を持って、自分のことがますます好きになれるように、また、友達のこと大切に思えるように、生きていることが楽しい！自分は幸せだ！と感ぜられるような保育を心がけていきたいとこれらのデータを見て思いを新たにしました。

在園中だけでなく卒園後も、「自分らしく、幸せな人生をおくることができるように」と心から願っています。